

論文要旨

所属ゼミ	河野研究会	学籍番号	80630593	氏名	田尾 統治
(論文題名)					
中小製造業の経営者の考察 - 中小製造業 4 社の事例研究 -					
(内容の要旨)					
本研究は、筆者の保険業界での業務経験において、「ある中小製造業の経営者が交代した結果、整理が行き届いていた工場現場が雑然となり、社員の様子が一変した。何故かくも変わってしまうのだろうか?」という疑問を感じたことが出発点となっている。このような事例は、他の中小製造業においても、散見される事例だと考えられる。このような事態を防ぎ、企業をマネジメントしていく上でリソースが充分とは言えない中小の製造業に着目し、経営者にはどのような役割があるのかをフィールドワークを通じて考察したいということが、本研究の問題意識である。 上記の問題意識のもと、本研究の目的は、中小製造業の経営者の役割を明らかにすることである。特に経営活動の成果は、B/S や P/L といった結果に記述されるが、それらの財務諸表を読みこなすだけでは読み取ることができない、経営者の思いや体験に触れ、経営者の役割を考察することを研究目的の主題としている。 研究のアプローチとしては、国内でのモノづくりで優れた成果を収めていること、及び工場現場への見学調査、経営者へのインタビューが可能な企業という観点から、中小製造業 4 社の事例研究とし、各社毎に文献研究、現地調査、経営者へのインタビューの 3 つの研究作業ステップを実施した。各社毎の分析が終了した後、4 社の文献研究、現地調査、経営者インタビューの考察を行い、研究目的の解明に努めた。分析、考察に関しては、仮説を設定した場合、経営者インタビューにおいて質問にバイアスが掛かってしまうことが予想されたため、あえて仮説を設定せず、事実を愚直に見ることによって、文献研究、現地調査と順次自らの問題意識を深化させた。最終的に経営者のインタビューで得られたことを深化して一般化することにより、結論を引き出すという、帰納法的手法を採用した。 文献研究からは、「文献研究のみで経営者の実態を把握することは難しい」ということが分かった。これは、文献については多様な読者を想定して記述されており、表現が一般的なものになり易く、経営者の強い思いは文面に表現しづらいことに起因しているものと考えられる。 生産現場に足を運んで行った現地調査からは、各社の工場現場に経営トップが地道に足を運んでいる様子を窺い知ることができ、「経営者の思いは、現場の細部に表れ、現場の変化が継続して初めて、叶えられる」ことが判明した。各社の生産現場をつぶさに視察したところ、現場には種々の工夫や仕掛けが施されており、そこには経営者の思いや意図が込められていた。改善された現場の状態が継続することは、困難な場合が多いが、その状態が社員の協力によって継続してこそ、経営者の思いは現場に浸透していると言える。 経営者インタビューから、経営者の役割については「真の問題を自ら設定、問題解決の具体策を決断し、社員に明確に打ち出すこと」が基本であることが明らかになった。これは、経営者が具体的方策を決断し、社員と一体になって地道に改善に取り組むことにより、経営資源のムリ・ムダの発見につながり、省人・省スペース化が進むことで、コスト削減効果を生み出している。また、同時にその一方で、改善に取り組む風土が醸成されることにより、社員による課題解決の工夫創出が図られ、社員の主体性が向上するというプラスの効果も引き出している。					